

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向  
平成 26 年 11 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 11 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,670 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲3.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,786 円（伸び率 0.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,424 億円（伸び率▲3.5%）、薬剤料が 4,236 億円（伸び率▲3.0%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 583 億円（伸び率 15.2%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8~9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,435 円	2.95 種類	21.6 日	85 円
伸び率（%）	+0.3	▲0.9	+3.1	▲1.8

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬 3,508 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲134 億円）を薬効大分類にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 851 億円（伸び幅▲98 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 61 化学療法剤の 21 億円（総額 140 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~15）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,508 億円 （▲134 億円）	21 循環器官用薬 （851 億円）	11 中枢神経系用薬 （586 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（464 億円）
0 歳以上 5 歳未満	45.4 億円 （▲5.6 億円）	44 アレルギー用薬 （19.0 億円）	61 抗生物質製剤 （12.1 億円）	22 呼吸器官用薬 （7.0 億円）
5 歳以上 15 歳未満	87.6 億円 （▲8.4 億円）	44 アレルギー用薬 （38.9 億円）	61 抗生物質製剤 （16.1 億円）	11 中枢神経系用薬 （12.0 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,238 億円 （▲71 億円）	21 循環器官用薬 （265 億円）	11 中枢神経系用薬 （259 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（173 億円）
65 歳以上 75 歳未満	878 億円 （▲10 億円）	21 循環器官用薬 （260 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（137 億円）	11 中枢神経系用薬 （102 億円）
75 歳以上	1,259 億円 （▲39 億円）	21 循環器官用薬 （324 億円）	11 中枢神経系用薬 （213 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（150 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,786 円（伸び率 0.9%）で、最も高かったのは石川県（10,936 円（伸び率▲1.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,498 円（伸び率 2.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは和歌山県（伸び率 2.4%）、最も低かったのは石川県（伸び率▲1.3%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 583 億円（伸び率：15.2%、伸び幅 77 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注</sup>	57.0%	+8.5%
薬剤料ベース	13.8%	+2.2%
後発品調剤率	61.8%	+6.1%
（参考）数量ベース（旧指標）	37.7%	+6.4%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+15.2%	+26.9% （0 歳以上 5 歳未満）	+4.6% （60 歳以上 65 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.8%	14.9% （65 歳以上 70 歳未満）	9.3% （10 歳以上 15 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 （→P.38~44）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	517 億円 （+65 億円）	21 循環器官用薬 （148 億円）	23 消化器官用薬 （95 億円）	11 中枢神経系用薬 （58 億円）
0 歳以上 5 歳未満	5.76 億円 （+1.17 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.36 億円）	61 抗生物質製剤 （1.50 億円）	44 アレルギー用薬 （1.11 億円）
5 歳以上 15 歳未満	9.99 億円 （+1.70 億円）	44 アレルギー用薬 （3.74 億円）	61 抗生物質製剤 （2.67 億円）	22 呼吸器官用薬 （2.05 億円）
15 歳以上 65 歳未満	176 億円 （+16 億円）	21 循環器官用薬 （46 億円）	23 消化器官用薬 （28 億円）	11 中枢神経系用薬 （23 億円）
65 歳以上 75 歳未満	134 億円 （+19 億円）	21 循環器官用薬 （48 億円）	23 消化器官用薬 （25 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（15 億円）
75 歳以上	191 億円 （+28 億円）	21 循環器官用薬 （53 億円）	23 消化器官用薬 （41 億円）	11 中枢神経系用薬 （26 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	904 円	1,258 円（岩手県）	738 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+20.0%	+31.9%（秋田県）	+13.8%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	57.0%	70.6%（沖縄県）	47.5%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	13.8%	18.0%（鹿児島県）	10.8%（徳島県）
後発医薬品調剤率	61.8%	73.1%（沖縄県）	54.2%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	37.7%	49.2%（沖縄県）	31.9%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成26年11月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。